

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI日本小型成長株選抜ファンド（愛称：センバツ）」は2019年6月24日に第10期決算を行いました。

当ファンドは、小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引市場に上場する中小型株式に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第10期末(2019年6月24日)

基準価額	21,264円
純資産総額	2,656百万円
第10期	
騰落率	28.5%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択してください。

SBI日本小型成長株選抜ファンド (愛称:センバツ)

追加型投信/国内/株式

交付運用報告書

第10期(決算日2019年6月24日)

作成対象期間(2018年12月26日~2019年6月24日)

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間: 営業日の9:00~17:00

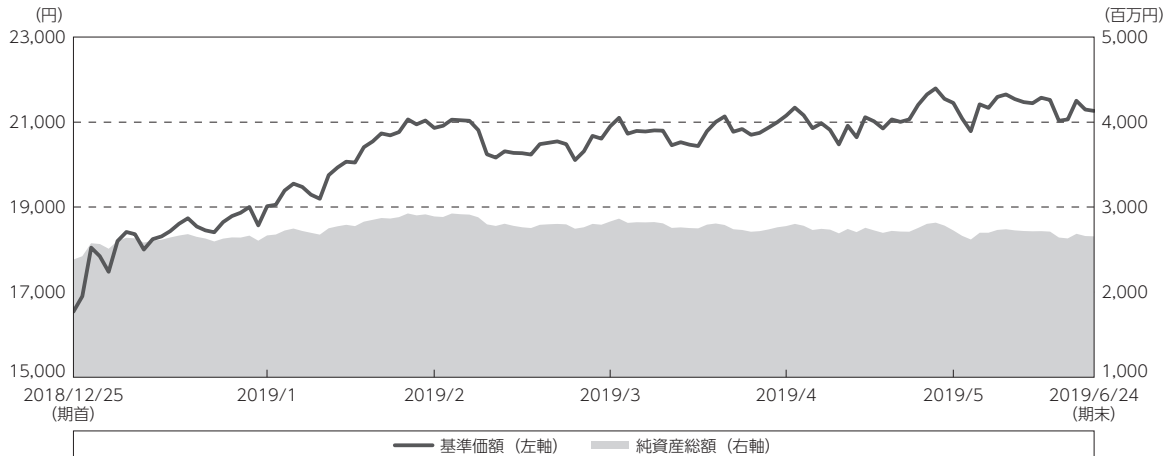
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2018年12月26日～2019年6月24日)



期首：16,542円

期末：21,264円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 28.5% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、期首の16,542円を最安値としてスタートした後、期の前半は、米連邦準備制度理事会 (FRB) による利上げ打ち止め観測の高まりや中国政府による景気対策への期待などから国内株式市場が堅調に推移するなか、新興市場の自立反発もあり、当ファンドも大きく上昇しました。期の後半は、2019年5月にトランプ米大統領の発言をきっかけに米中貿易摩擦への懸念が再燃し国内株式市場は下落しましたが、当ファンドは銘柄選択が奏功したことから緩やかに上昇し、5月29日に当期最高値となる21,790円を付けました。6月は大型株優位な相場展開となるなか、当ファンドはやや調整し、決算日である6月24日の基準価額は21,264円で終わりました。

1万口当たりの費用明細

(2018年12月26日～2019年6月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	146	0.723	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(87)	(0.428)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(54)	(0.268)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	12	0.061	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(12)	(0.061)	
(c) そ の 他 費 用	8	0.039	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(2)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(6)	(0.031)	開示資料等の作成・印刷費用等
(そ の 他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	166	0.823	
期中の平均基準価額は、20,205円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

(注4) 売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注6) 当ファンドは実績報酬制を採用しております。当該実績報酬として上記費用とは別に期末(2019年6月24日)に1万口当たり0円を支払っております。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年3月27日～2019年6月24日)



(注) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2014年3月28日 設定日	2015年6月22日 決算日	2016年6月22日 決算日	2017年6月22日 決算日	2018年6月22日 決算日	2019年6月24日 決算日
基準価額 (円)	10,000	12,423	11,469	15,980	22,970	21,264
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	24.2	△ 7.7	39.3	43.7	△ 7.4
純資産総額 (百万円)	278	2,406	3,223	4,111	4,123	2,656

(注1) 当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年6月22日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

(2018年12月26日～2019年6月24日)

当期の国内株式市場は、期の前半は、通商問題をめぐる米中の交渉進展への期待感が広がったこと、米金融政策において緩和的な姿勢が示されたこと、中国で景気下支えへの姿勢が示されたことなどを背景に上昇基調となりました。

期の中旬は、景気減速や企業業績の悪化が懸念される一方、米中貿易摩擦の懸念後退や中国の景気刺激策への期待などが下支え要因となり、2019年3月はほぼ横ばいでの推移となりましたが、4月に入ると堅調な米中経済指標や為替の円安推移が好感され反発し、日経平均株価は節目となる22,000円を回復しました。

期の後半は、トランプ米大統領の発言をきっかけに米中貿易摩擦への懸念が再燃し、さらに米国・メキシコ間の貿易協定の先行きに対する警戒感も高まり調整が進みました。6月に入ると、FRBのパウエル議長の発言をきっかけに米利下げ観測が高まり米株高となったことや、米国によるメキシコへの関税発動が見送られたことから買い安心感が広がり、上昇して期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2018年12月26日～2019年6月24日)

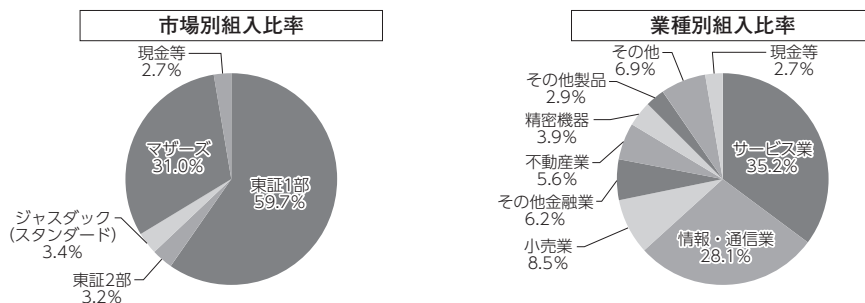
＜当ファンド＞

主要投資対象である小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用いたしました。

＜小型成長株・マザーファンド＞

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の助言をもとに投資判断を行い、運用いたしました。投資を行った銘柄は、わが国の株式のうち、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」です。原則、公開後3年以内の企業を投資対象としています。ボトムアップ調査を行った銘柄のうち、成長性・収益性・安全性・革新性・株価水準等を総合的に評価判断し、おおむね50銘柄を組入れ、逐次銘柄見直しを行いました。また、銘柄分散、時間分散を考慮し、1銘柄で最も組入比率が高いものでもおおむね4%を上回らないようにしました。

なお、株式の組入比率に関しては、おおむね95%以上を維持しました。期末の株式組入比率は97.3%となっております。



※組入比率はマザーファンドの純資産総額比です。四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年12月26日～2019年6月24日)

当ファンドは、新規公開といういわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」の株式に厳選投資をするという特色を持つファンドであり、特定のベンチマーク及び参考指数を採用しておりません。

分配金

(2018年12月26日～2019年6月24日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第10期
	2018年12月26日～ 2019年6月24日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	11,263

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き、主要投資対象である小型成長株・マザーファンド受益証券を高位に組入れる方針で運用を行います。

<小型成長株・マザーファンド>

引き続き、エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社の投資助言に基づき、革新的高成長が期待される企業の株式へ厳選投資します。

なお、投資助言を行っているエンジェルジャパン・アセットマネジメントでは、以下のようにコメントをしています。

当期（2018年12月26日～2019年6月24日）の国内株式市場は、2018年秋口から続いた混乱から落ち着きを取り戻しました。米中貿易摩擦の行方や世界景気・米国金利動向の先行きなど不透明感が残るなかで、神経質ながらじりじりと戻す展開が続きました。

こうしたなかでは特に個別企業の見極めが重要になってきます。上場企業の2020年3月期純利益は2期連続の減益となる見通しです。業種別では小売業や不動産など非製造業は増益を確保する一方、米中貿易摩擦や中国経済の減速などが響き、グローバルに展開している製造業を中心に業績悪化を見込んでいます。もちろん、期初計画を保守的に開示する企業が多いという点は考慮しなければなりません。米中問題や英国の欧州連合（EU）離脱問題など着地点が見えない事象が複数あるなかで、世界経済の先行きについて不透明感を感じている企業が多いことは間違いないでしょう。経営者の方々と日々個別面談しているなかでも、それは強く感じるどころです。

こうした局面では、大企業よりも相対的に外部環境の影響を受けにくい中小型株が選好される傾向があります。しかし、中小型株を中心に運用していれば安泰というわけではありません。中小型株は外部環境とは関係のない要因で業績が大きく動くため、丹念に一社一社を調査・分析するという時間と手間をかけなければ、投資するのが難しい領域だからです。しかも、特定の企業へ集中投資するのはリスクが高いため、数十社へ投資することでリスク分散を図る必要もあり、それだけ調査・分析の量を確保しなければなりません。当ファンドといたしましては、こうした手間のかかる業務を受益者の皆様に成り代わって行っていると考えています。今後も引き続きこうした積極的な調査活動を通じて、魅力的な成長割安50社パッケージを作っていきたいと考えています。

お知らせ

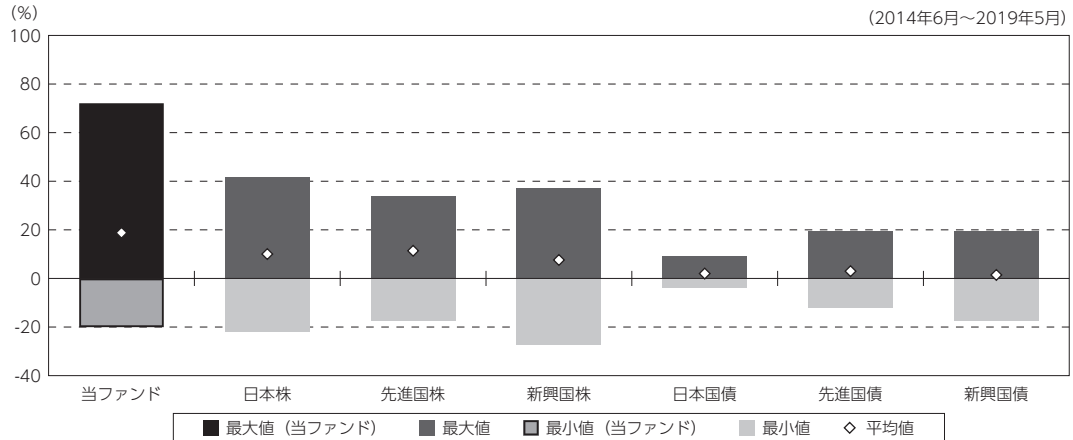
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	小型成長株・マザーファンド受益証券への投資を通じて、信託財産の中長期的な成長をめざして積極的な運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド (ベビーファンド)	小型成長株・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資することもあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち中小型株を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド (ベビーファンド)	主として、小型成長株・マザーファンド受益証券に投資し、信託財産の積極的な成長をめざして運用を行います。 なお、マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位を維持します。
	マザーファンド	わが国証券取引所上場株式のうち中小型株を主要対象とし、投資を行います。 また、株式の投資に際しては、新規公開という、いわば「第2の創業期」を成長の契機として、新たに成長を加速する、企業家精神に溢れた「次代を拓く革新高成長企業」を厳選して分散投資します。 なお、外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	年2回、6月22日及び12月22日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。 分配対象額の範囲は経費控除後の配当等収益及び売買益等の全額とします。委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	72.1	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 20.1	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	18.8	10.0	11.4	7.6	2.0	3.0	1.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2014年6月から2019年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年6月24日現在)

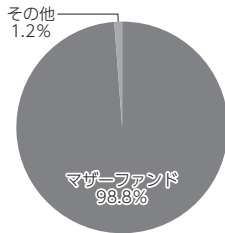
○組入上位ファンド

銘柄名	第10期末
小型成長株・マザーファンド	% 98.8
組入銘柄数	1銘柄

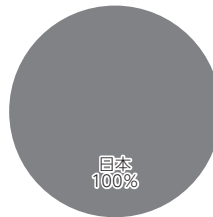
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

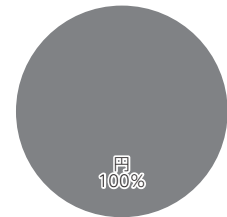
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

純資産等

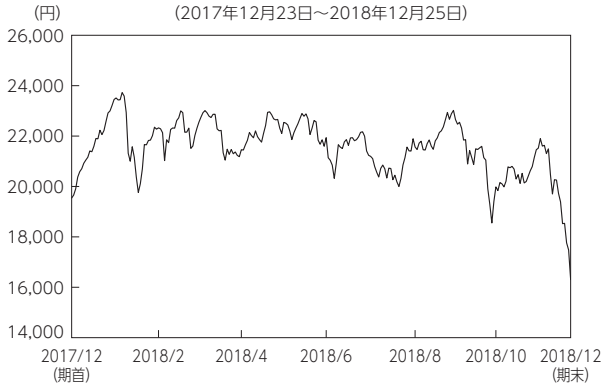
項目	第10期末
	2019年6月24日
純資産総額	2,656,329,701円
受益権総口数	1,249,225,574口
1万口当たり基準価額	21,264円

(注) 期中における追加設定元本額は171,255,354円、同解約元本額は363,116,597円です。

組入上位ファンドの概要

小型成長株・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2017年12月23日～2018年12月25日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	45 (45)	0.205 (0.205)
(b) その他費用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)
合 計	45	0.205

期中の平均基準価額は、21,863円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2018年12月25日現在)

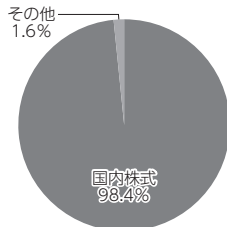
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	イトクロ	サービス業	円	日本	3.9%
2	メニコン	精密機器	円	日本	3.8
3	ティーケーピー	不動産業	円	日本	3.8
4	S H I F T	情報・通信業	円	日本	3.6
5	ジャパンエレベーターサービスホールディングス	サービス業	円	日本	3.6
6	オープンドア	情報・通信業	円	日本	3.5
7	ソウルドアウト	サービス業	円	日本	3.5
8	ビジョン	情報・通信業	円	日本	3.4
9	デジタル・インフォメーション・テクノロジー	情報・通信業	円	日本	3.4
10	アトラエ	サービス業	円	日本	3.4
組入銘柄数			51銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

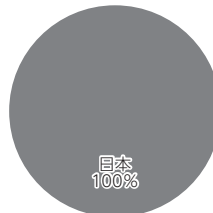
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

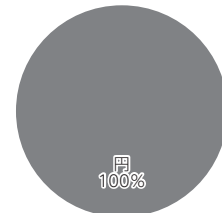
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2018年12月25日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。